

小型キットで感染症など早期発見

採血検査を “セルフ”で

松波病院研究所が特許取得

松波総合病院（羽島郡笠松町）を運営する社会医療法人蘇西厚生会の付属研究所「まつなみリサーチパーク」が、採血と生化学検査などを一体型した器具を考案し、特許を取得した。（山田俊介）

器具は麦わら帽子のよう
な形をしており、押す
と中から採血針が出て、
内部の反応試薬で感染症
などの検査結果が分かる
仕組み。患者に常備して
もらうことで自宅で簡単
に検査でき、感染症の早
期診断や感染拡大防止、
生活習慣病の自己管理な
どに生かせるとして実用
化を目指している。

採血や検査キット、針
の収納スペースなどが一
体型になった画期的なア
イデアとして、今年10月
に特許を取得した。イン
フルエンザに感染してい
るかの検査など、病院へ
行かずに自分で健康を管

海外での販売を視野

理する「セルフメディケ
ーション」に活用できる。
採血する時にだけ針が器
具の外に出るため、安全
に検査できる。
海外での販売を視野に
実用化を目指す。松波英
寿理事長は「富山の置き
薬ならぬ、岐阜の置き検
査」として、健康管理に
役立つ物にしたい」と話
している。



自宅で手軽に採血ができ、その場で結果が分かる器具の試作品。画期的なアイデアとして特許を取得した＝羽島郡笠松町、松波総合病院